

### 3 研究の種類 —研究の種類を整理する—

研究に取り組む前に、研究の性質から分類し、見通しを立てる。

研究の対象が異なれば、研究の内容や方法も変わってきます。これから取り組もうとする研究がどのような性質をもった研究となるか、事前に見通しをもって取り組む必要があります。

下の表は、教育研究の種類を性質別にまとめたものです。表の右側の上段の欄は、研究の内容や方法、下段は留意事項を記述しています。

《参考：研究の種類》 (福岡県教育研究所連盟編『新訂校内研究のすすめ方』p.8-10)

研究の種類	研究の内容や方法
	留意事項
教育の理論や理念に関する研究	研究者の論や先行研究、研究の裏付けとなる資料等を引用したり、取り入れたりして、自分の教育論としてまとめる。
	理論性、客観性、独創性、検証の方法が必要である。
調査研究	教育に関わる各種事象の傾向や要因を明らかにし、その改善を図るために、学習や意識、行動等について調査を行い、その結果を分析、考察する。
	単純な集計結果だけのものは、調査報告となる。
事例研究	問題行動をとる児童生徒や障害のある児童生徒などについて、多角的・多面的な資料からその因果関係や要因を究明するとともに、処置や治療の計画を立て、その経過までをたどる。
	一個人を集中的に研究するものである。
教材開発研究	教育効果をより高めるために、授業等で使用する教材や教具等を開発、作成する。
	理解を深める、興味・関心を高めることを目的とする。
実験的研究	仮説を立てて、実験によって検証をし、仮説の有用性を確かめる。
	児童生徒を実験対象にすることはできない。
実践的(指導法改善的)研究	教育の内容や方法や指導の手立て等を改善、工夫し、仮説を立てた上で、実践によってそれらの有用性を検証する。
	単なる実践や実情の報告にならないようにする。

(参考文献) 福岡県教育研究所連盟編『新訂校内研究のすすめ方』 第一法規 1991